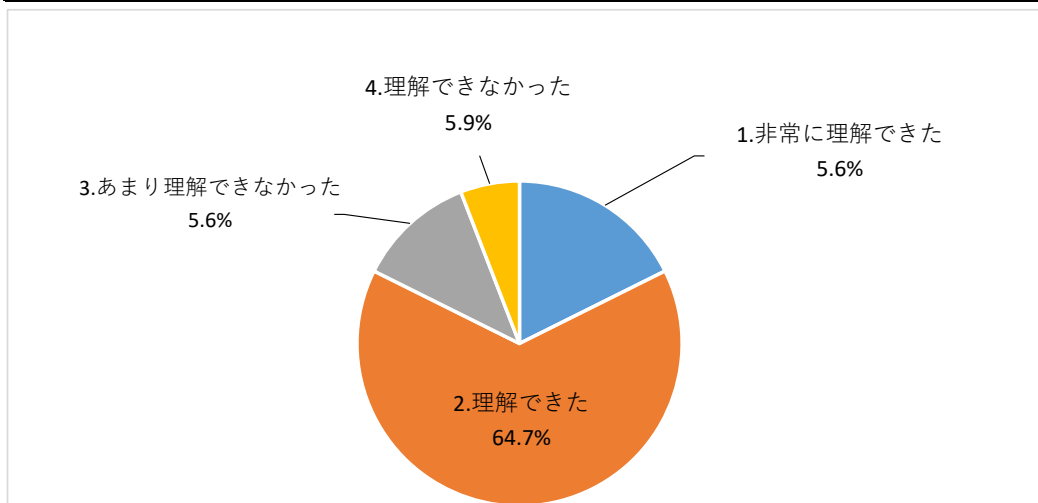


## ■市民協働研修(管理職、中堅職員)アンケート

《調査概要》	回答期間: 令和5年2月2日～令和5年2月14日 回答方法: e-KANAGAWAにて回答 回答対象: 市民協働研修(管理職、中堅職員)の受講者 対象者数: 21人 回答者数: 17人 回答率: 約81%	n = 17
	※問5 自由記述のみ。	

【問1】 今回の研修を受けて、協働について理解が深まりましたか。その理由をお書きください。

1.非常に理解できた	3	17.6%
2.理解できた	11	64.7%
3.あまり理解できなかった	2	11.8%
4.理解できなかった	1	5.9%

**非常に理解できた**

- ・協働とは何かの基礎から講義をしてもらい、わかりやすかった。
- ・講師の方が気さくで話が分かりやすかった
- ・志村先生の事例紹介

**理解できた**

- ・まちづくりの歴史も一緒に学ぶことで協働のまちづくりの特徴を理解することができました。
- ・もう少し、詳しく話が聞けると良かった。
- ・横須賀市の事例を通じて具体的な内容の説明があったため
- ・概要は分かりました
- ・概要は理解できた。
- ・官民(市民も)が連携して事業を進めることが必要であると理解しました。
- ・協働について再確認できた
- ・協働に対するメリット・デメリットを再認識できた
- ・講師の話が親しみやすく分かりやすかった
- ・市民協働で事業を行った経験はありませんが、協働がうまくいった例や、課題など説明が分かりやすく、理解できました。
- ・背景などは理解できた

**あまり理解できなかった**

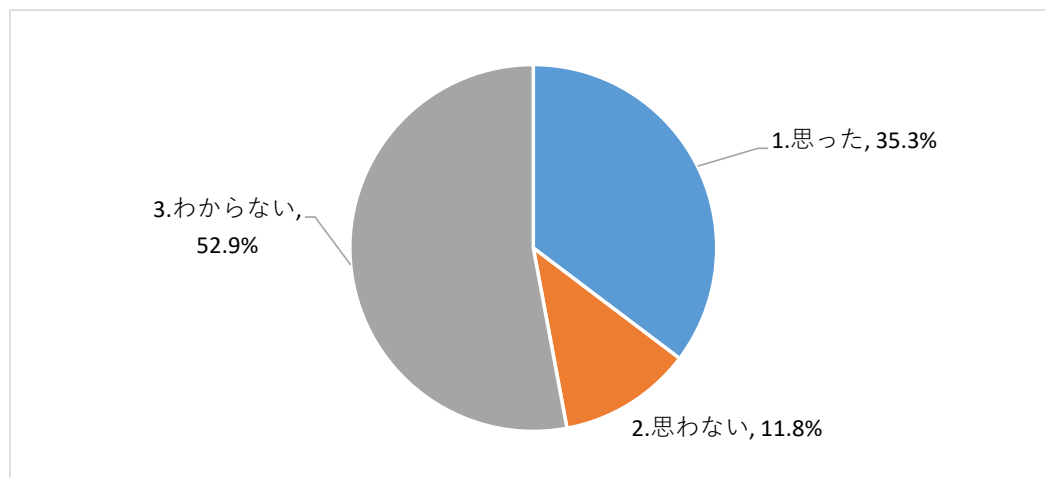
- ・内容に対して時間が短かった。
- ・要点は理解したが、協働のメリットが感じられる内容ではなかった。

**理解できなかった**

- ・行政の立場で考えた場合に、いわゆる市民協働によりメリットがあるのかどうか分からないと感じた。

【問2】 今回の研修を受けて市の事業実施の手段として協働が効果的だと思いましたか。その理由をお書きください。

1.思った	6	35.3%
2.思わない	2	11.8%
3.わからない	9	52.9%



#### 思った

- ・協働することで「デメリット」となる部分もあるが、市民の意見を取り入れやすいという点で効果的であると思います。
- ・市だけの意思で政策を進めるのではなく、市民理解のもと、市全体で施策を進めるため
- ・市民の意見を聴き、納得を得る良い手段と思った
- ・協働による事業実施が最適または効果が大きく期待できる事業に限る
- ・市の事業に対する市民の納得感が増すから
- ・実施事業による

#### 思わない

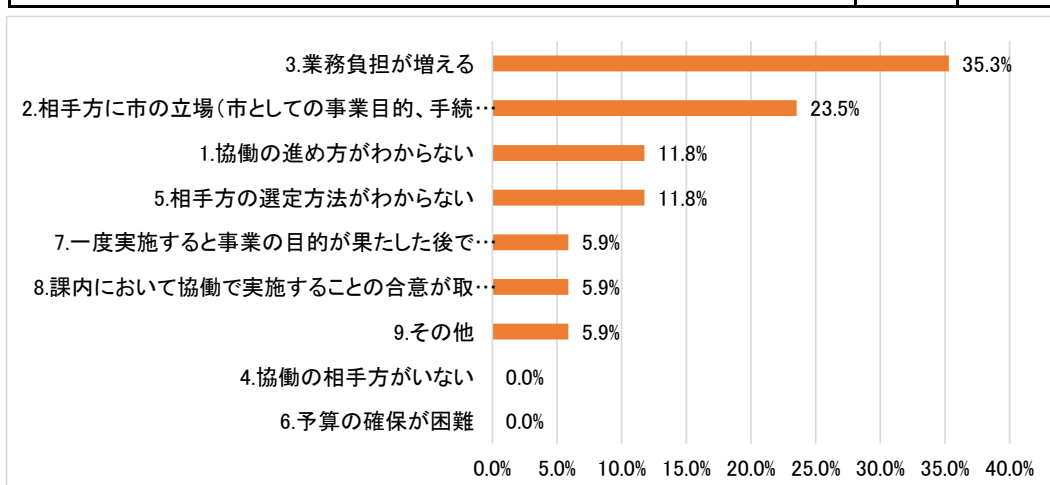
- ・今回の研修で特に意識が変わったとは思わない。
- ・課題が多いため

#### わからない

- ・意欲のある人・市にないスキルを取り入れられる等のメリットもある一方、それが全体の最適解になるのかが分からない。
- ・総論としては効果的だが、事業内容や相手方の選定、競争性、相手方の能力による
- ・効果が期待しやすい事業分野などが類型化されてくるとわかりやすいと思った。
- ・他自治体における事例をもっと知らないことには、判断できないと思う。
- ・協働の歴史についてのお話が主だったため
- ・ケースバイケース？
- ・内容次第のところもあると思われる。

【問3】 協働を実施するにあたり課題になることは何ですか。また、その背景にはどのような問題があると考えますか

3.業務負担が増える	6	35.3%
2.相手方に市の立場(市としての事業目的、手続き、ルールなど)を理解してもらうことが困難	4	23.5%
1.協働の進め方がわからない	2	11.8%
5.相手方の選定方法がわからない	2	11.8%
7.一度実施すると事業の目的が果たした後であってもやめにくい	1	5.9%
8.課内において協働で実施することの合意が取りにくい	1	5.9%
9.その他	1	5.9%
4.協働の相手方がいない	0	0.0%
6.予算の確保が困難	0	0.0%



#### 業務負担が増える

- ・多くの方の意見を取り入れるため、まとめるのに時間がかかる問題があると考えます。
- ・相手方にとっては優先順位が高くても市としては優先順位が低い(不要ではないが不急ではない)ことを進めなければならなくなるから
- ・実現可能な計画であればよいですが、理想ばかりを追い求めてしまうことで、実現不可能な計画となる可能性があるため。
- ・時間がかかり、まとまらない恐れがある
- ・対等の立場で進める一方で、事務的機能の行政側の負担割合が大きい
- ・協働をした場合の業務負担と効果のバランスを判断するのが難しいと思います。

#### 相手方に市の立場(市としての事業目的、手続き、ルールなど)を理解してもらうことが困難

- ・施設管理上のルールがあるなかで、市民側がそれを超えた内容を求めている場合もあり、対応が難しいと感じる場合がある。
- ・事業の全体像や目指すべき姿を共有しなければ上手く進まない。
- ・市職員としてのルールと市民のルールは異なる部分があると思うので。
- ・理解してもらった成功事例を聞きたい

#### 相手方の選定方法がわからない

- ・公平性の確保
- ・相手方の選定理由をどのように整理するか

#### 一度実施すると事業の目的が果たした後であってもやめにくい

- ・特に費用がかかる事業の場合、行政の援助を当てにしている点に注意すべき。相手方の費用負担が前提となる事業での協働は控えた方が良いと思う。

#### 課内において協働で実施することの合意が取りにくい

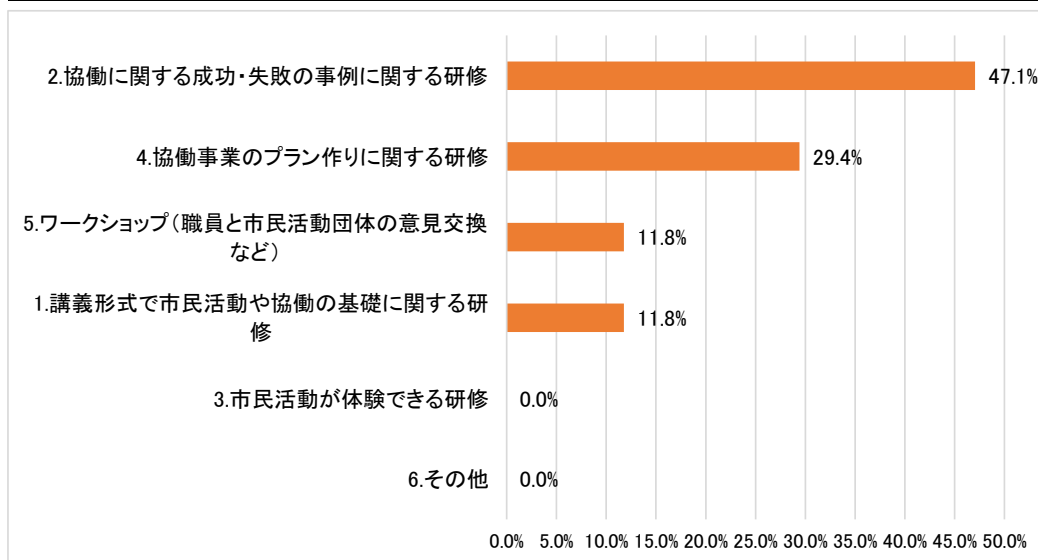
- ・協働で進めた事業が達成された場合、その後の行政の立場(責任)などがどうなるか見えずらいため

#### その他

- ・時間がかかる(2,3,4も課題だと思います)

【問4】 今後、どのような研修があれば協働の推進に役立つと思いますか。受けてみたい研修内容を選択してください。

2.協働に関する成功・失敗の事例に関する研修	8	47.1%
4.協働事業のプラン作りに関する研修	5	29.4%
5.ワークショップ(職員と市民活動団体の意見交換など)	2	11.8%
1.講義形式で市民活動や協働の基礎に関する研修	2	11.8%
3.市民活動が体験できる研修	0	0.0%
6.その他	0	0.0%



【問5】 市民活動や協働の推進にかかる施策についてご提案やご意見等がございましたら、ご記入ください

自由記述

市民協働をより多く実施するには、協働による事業の始まりから、終わりまでをある程度見定める必要があると思う。

そのために、他自治体の事例などの説明などあるとよい。  
具体的な事業の立案については、他自治体の好事例から、まったく同じ事業を本市でも実施するなどが近道と考える。

内容とは関係ありませんが、席がワークショップの形式で講師に背を向けた席配置でしたが、半分以上が講義だったので、内容によって席の配置を変えていただけると有難いです(無理な姿勢で聞くことになり、その後暫く腰が痛くなってしまいました…)

本市においては、行政課題に対する市民意識が高い市民が多く、協働事業を立ち上げやすい風土であると感じる一方で、特定(一部)の意見に対する対応に苦慮する場面も多いと感じています。  
市民との合意形成を図る上では、市民活動や協働の推進も重要な役割を持つことは認識していますが、合わせて、行政職員としての交渉力、説明力を向上することも必要だと思っています。

講師の先生も仰っていましたが、「協働≠非効率的」であることを念頭に置き、安易に協働すべきではないと考えます。

意識改革も必要かも知れませんが、育休や療休による欠員を抱える課が多い中、「今の組織の状況が、物理的に協働を推進できる状況なのか？」というところから考える必要があるのではないのでしょうか。

DXを活用した協働は、人的負担を削減できる可能性があると感じます。

私自身がこれまでに市民協働にかかわった経験がないため、庁内で既に実施した事業についてのメリットやデメリット、効果や課題などの実例を紹介してもらいたいです。